

PTA だより

特別編

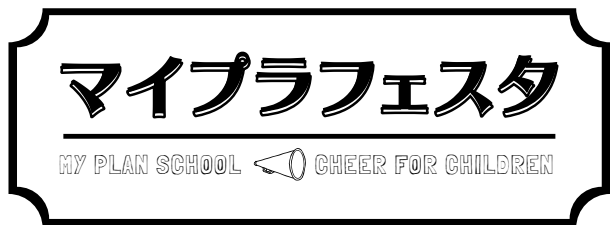
マイプラ
全力応援！
特集号②

PTAだより マイプラ全力応援特集号！第二弾となる今回は、10月のマイプランスクールの活動の様子をお伝えします。

また、先生方にインタビューやアンケートにご協力頂きました。そこから見えてきたのは、マイプランスクールと共に変わっていく四小の姿でした。子供たちから湧き出る「『好き』『面白そう』だからやってみよう！」というエネルギー。その好奇心を支える環境づくりに挑む先生方の想い。学校も、子供たちと共に成長する方へ、今まさにシフトしています。

大人こそ、子供と一緒に面白がることです。本来持っているあなたの探究心が開くような、そんな可能性が、どうやらマイプランスクールにはありそうです。

マイプラを楽しむ 2DAYS

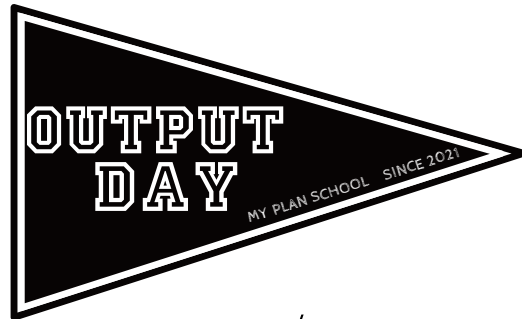


2024 11 / 2 [土]

マイプラフェスタ

中間発表の日。

まだまだ未完成で探究の途中です。
子供たちへの「いいね」はもちろん、こうしたら伝わりやすくなるよといったご意見も大歓迎。探究がブラッシュアップできるようご協力お願いします。



2025 2 / 1 [土]

アウトプットデイ

すべてを発表する日。

子供たちの発表が、マイプラフェスタの時よりも良いものになっていたら、ぜひ褒めてあげてください。

子供たちの成長を感じられる一日。

Enjoy!
この冊子の目次

潜入！マイプランスクールの日	→	p2～4
せんせいにききました(先生方のアンケート)	→	p5～8
校長先生インタビュー	→	p9～12

参観の様子



この日参観されている保護者の皆さん。子供たちに声をかけてくださる方、そっと見守られている方さまざま。

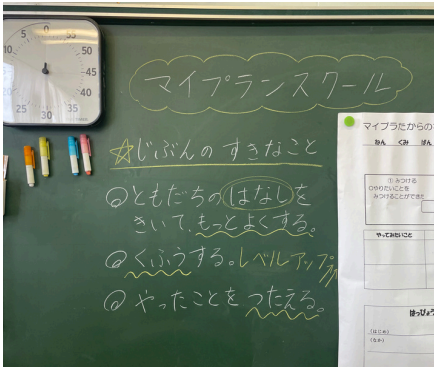
潜入！

マイプランスクールの1日

MY PLAN SCHOOL

令和6年10月1日 マイプランスクールの様子を取材させて頂きました。その様子をレポートします。子供たちの探求は十人十色。限られた時間内で全学年回ることができず、こちらにご紹介するのはほんの一部。もっと知りたい！という方は普段のマイプラの参観がおすすめです。

低学年の黒板



自分の好き 友達の好き。
お互いを知り 磨き合う。

一年生の教室



自分の好きなことは何だろう。作ったり、調べたり、考えたり、夢中の時間を確保します。

材料とお道具

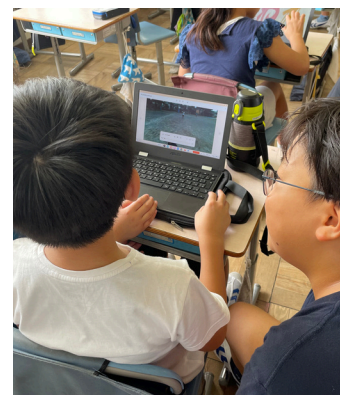


作る系の探究にはご家庭のご協力あってのこと。用意して下さりありがとうございます。

校庭で 教室で



校庭で思いきり試したら

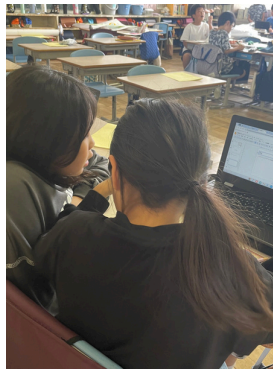


教室に持ち帰って考察します。

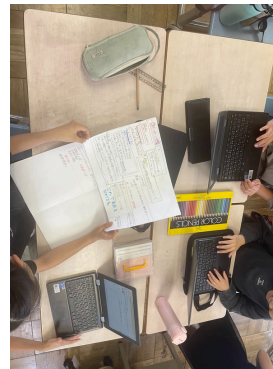
四年生はプロジェクト活動



もしも災害が起きたら？地域のために、学校のために、命のために。



お悩み相談。自分が悩んだことがあるから、誰かのために。



障害のこと。調べて初めて知ることもたくさん。

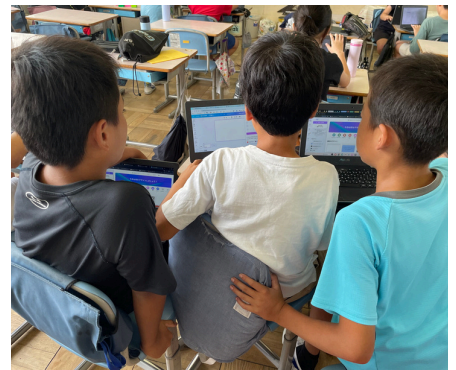


おみくじで楽しく、ちょっと幸せになれるかも！クラスのために。

中学年の黒板



デザインをカッコよく



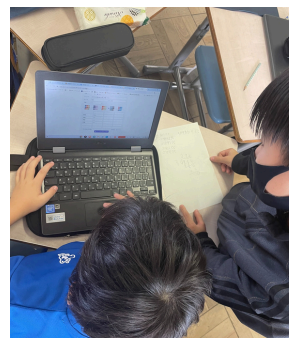
離れていても一緒に



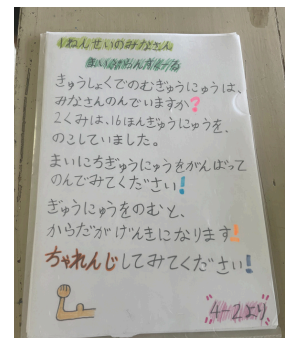
欠席でも繋がれる子とはGoogle meetで打ち合わせ。

スライドのデザインもこだわりたい！Canvaを使ってみよう。子供たちのスキルアップは早い！

四小の食品ロス



給食の食べ残しをグラフにして数値化。算数で習ったことが生きます。



どうすればみんなが牛乳を残さずにいられるか。伝え方を工夫してみたり。

やってみなくちゃわからない



3階からアルミ玉を落とすとどうなる？



どこにも答えが載っていない問いは…

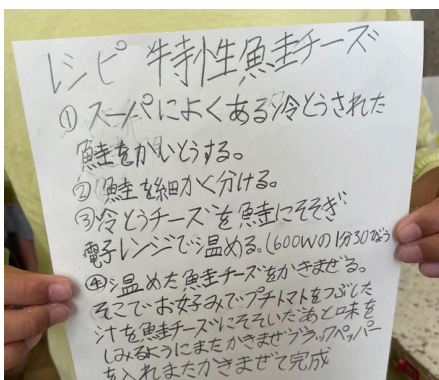
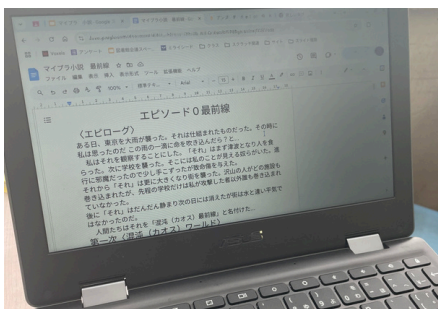
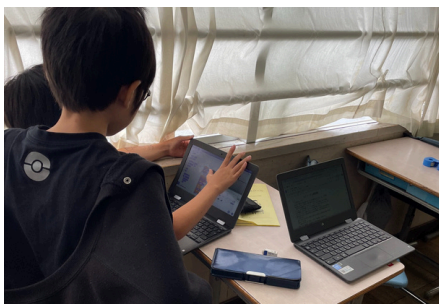


やってみなくちゃわからない！



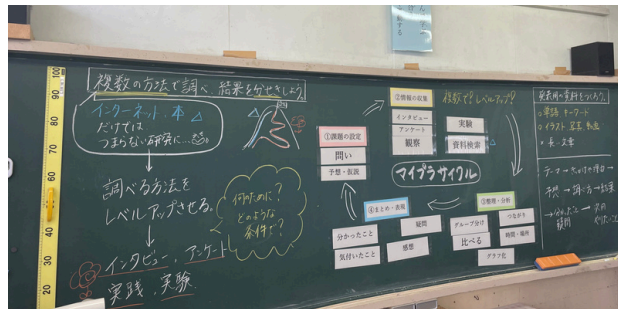
保護者の方が撮影担当。子供も大人も一緒にやってみる。

十人十色の
クリエイティビティ



プログラミングに、小説に、レシピ考案。創作は本当にさまざま。

高学年の黒板



多摩川で探究



元大学教授で理科教育が専門の先生と多摩川へ。帰ってきたばかりの子供たちと遭遇。昆虫、魚、水辺の生き物、皆それぞれのテーマで収穫があった様子。楽しかった！と目を輝かせていました。「子供たちのパワーは素晴らしいね！」と先生より嬉しい感想を頂きました。

せんせいに Q&A ききました

マイプランスクールは前例のない取り組み。先生方は日々試行錯誤なのだそうです。探究する子供たちの姿を一番近くで見ている下さる先生方に、4つの質問に答えて頂きました。

Q1

マイプラアフエスタやアウトプットデーの

見どころを教えてください。

これまでの探究の成果を自分の言葉で語るどころ

1年生が活動していく中で好きなことを見付け、自分の言葉で発表するところが見どころです。

好きを追求しているので、波に乗ると目を輝かせて活動するところ。

役割を決めての発表！

子供たちの主体性、一人一人子供が主役

児童が自分なりに精一杯発表に取り組みます。

学校の中だけでなく、校外の活動があること

児童が自分の問いを解決するために、自分の言葉で語るどころ

探究活動をして分かったことや知らせたいことを実演したり、動画に撮った様子を流したりする児童もいます。真剣かつ楽しみながら発信している様子にエールを送って頂きたいです。

自分の言葉で一生懸命伝えようとするところ

今年度、6年生が劇をします。地域の「劇団ひの」の方に協力をお願いし、数回劇指導をしていただく予定です。初めての取り組みですし、完成は3学期になるかもしれませんが、私は注目しています。

子供たちの表情に注目してほしいです。

1年前と比べて、発表の仕方が上手になっているところが見どころです。

紙飛行機に関する探究

をしている6年生が、紙飛行機の折り方講習(中休み)「みんなで飛ばそう大会」(昼休み)を企画し、1人で低学年を中心とした大人数を相手にするため、様々な準備、シュミレーション、告知を行い、当日の折り方講習はスムーズに進みました。昼休みに体育館で行った「みんなで飛ばそう大会」は100人を超える大盛況。熱中していました。多くの生の感想や声を直接聞き本人にとっても多くの学びになったと思われます。マイプラの発表が楽しみです。

元東京純心大学教授の

「岡部廣先生」にお越しいたごき多摩川で研究を行えたこと

やることが見つからない児童が、調べ方が分かった瞬間にスイッチが入って自分から進んで行動していた。

Q2

マイプラの活動の中で

エピソードを教えてください。

紹介したい

子供たちが気軽に

校長先生や副校長に間をもって探究に来るようになった。子供たちにとっても関りが広がっている様子を肌で感じ、嬉しい。ちなみに、副校長は子供たちと卓球対決をして交流を深め、打球の回転について探究できました。

一人のテーマから人が集まり、プロジェクトとして成立したこと。「上手に役を演じるにはどうしたらいいのだろう」という問いに対して、賛同して仲間が集まり、演劇をつくっていくことになったプロジェクトチームがある。

マイプラフェスタ

週間において、自分の興味のあることをたくさんの人に経験してもらい、本人はとて嬉しそうでした。やはり、自分の「好き」を他者に認めてもらう経験はとて良いと感じました。

4年生はプロジェクト型学習をする中で、役割を分担しながら協力しているグループがいくつもありました！

クリーンプロジェクト(6年生3組の児童)は校庭にある毒性の植物

今年度から、社会教育福祉会の方に協力をお願いしたり、教職員が探したりして、地域の専門家を招きました。本物の話を聞いたり、一緒に活動する中でアドバイスをもらったりして、子供たちはとて喜んでいました。また、保護者の方が協力してくださり、伴走者としてや、詳しい大人として話してくださいました。一人ひとりテーマが違うマイプランスクールにおいて、活動を見守る大人がたくさん必要です。ぜひ来て声をかけていただけると嬉しいです。

普段は授業が終わると、すぐに校庭へ遊びに行く1年生の子供たちが、マイプランスクールの日は休み時間も夢中になって取り組んでいるところだす。

マイプラの児童の活動の一環で、教室の中に国旗や四方位が貼られて、彩が出ました。

普段の授業の中「探究」という言葉が聞こえてくるようになりました。気になったことを探究していく姿勢が身に付いてきたのだと実感しました。

今年度、子供たちと大人を繋げる役割をしました。タブレットや本では調べきれない情報が得られることはもちろんですが、家族や教師以外の大人との関わりもとても大切だと思っています。これからも人材探しを続けていきたいと思っています。

マイプランスクールでは、「もっとよくするにはどうしたらいい？」というのを子供たちへの言葉掛けの一つとして指導してきました。他の教科でもよりよくするにはどうしたらいいのか考える児童の姿を発見しました。

子供たちの興味があることを応援することの楽しさとともに難しさです。

探究の仕方

Q3

マイプラを通して学んだことや、発見があれば教えてください。

児童の興味が多岐にわたっていたこと。まとめ方が様々あったこと。

普段の授業時に見せる、児童の『どうして？』『やってみよう！』という言動から、自分の『好き』を探究し続けることの大切さを改めて実感することができました。

子供たちの自分で探究していく力はすごいと感じました。

子供の好きに寄り添う楽しみを味わうことができることは、教員としての醍醐味だと感じています。

児童が様々な問いを見つけることがあります。

子供が発見することや気付くことを待つことが大切であること

普段の授業では見られない面（興味があることなど）

どのように伴走するかで児童のその後の学びの深まりが変わっていくこと。

子供たち一人一人の問いを深めていくことの難しさ 支援の難しさ

子供たちから教わることの方が多いということです。

子供にある程度まかせることで進むこともある

子供の力は大人が思っているよりとってもとっても大きい、子供の成長はとってもとっても早いということです。

「やりたい」と「かなえる」の大切さ。
↓
ウェルビーイングへの直結

普段の授業で、自分から問いをもつことができる児童が増えた。

- ・教育心理学
(教師が子供たちにどのように関わっていくと子供たちが幸せになるのか?)

- ・塊根植物(コーデックス)をどのようにして育てていくか?

犬が好きなので、
犬のしぐさや気持ちを探してみたいです。
もしくは、旅行が趣味なので、
日本各地の魅力について探してみたいです。

Q4

今、

探究してみたいことはありますか？

私が今興味をもっている
ことは、茶道です。

たくさんあります。

映画の歴史

食べられる野草

教員として：子供をさらに輝かせる
伴走の仕方
個人的に：新しいカレーの具(こんにゃくが意外とおいしかったです)

心地よい睡眠をとるには

バドミントンの上達方法

三重跳びができるようになりたい。

たくさんあります。

「メダカ」

- ・遺伝について
- ・海水でも生息できるのは本当か

家庭菜園(苺の育て方について)

けん玉の練習方法

42.195kmを
少しでも楽に走り切る
ランニングフォームとは？

INTERVIEW

教えて 校長先生！

マイプランスクールのことは校長先生に聞くのが一番。立ち上げの頃から現在までの軌跡のお話をして頂きました。

取材日： 令和6年10月4日 聞き手： PTA会長 山田 友子

山田 マイプランスクールが始まって何年目でしょうか？

校長先生 前任の小林校長先生の時に始まり、毎月実施するようになったのは令和四年度からですね。ですので今年で四年目になります。

山田 子供たちはどの様に変りましたか。

校長先生 やっぱ五、六年生の成長は著しいと思います。自分たちでテーマを見つけ、その問いに向かって探究していくという活動が当たり前にできてきている子がほとんどです。以前はなかなか自分で進められなかったり、そこそちょっと遊んで違うことをしてしまったり。でも今は教師がいるのに関係なくみんな一生懸命。たぶん探究的活動をやっている事の方がつと楽しいという事に気づいたんじゃないかと思っています。これは大きな変化だと思います。これは六年生の国語の授業を見ていた時です。

マイプラ 4年目の変化

校長先生 宮沢賢治の『やまなし』という授業で、「白い樺の木の花」というキーワードが出てくるのですが、最初一人がさっとクロームブックで調べて、こういう意味なんだよと教えてくれました。今度はまた別の子が調べて「やまなし」って希望という意味もあるよなんて発見もあつたりして。45分の中でそれぞれが考え、交流し、さらに深まっていきました。



み うら

ひろ お

interviewee

三浦

寛朗

校長先生

校長先生 マイプラの経験がこういったところに少しずつ広がっていったのだと感じました。低学年の子供たちは、マイプラという経験が一年目、二年目で、大きな変化が難しいと思うんですが、私が見ていると思うのは、お友達と一緒にやれる子もいるし、自分一人で頑張れる子もいる。いろんなやり方が教室にあって、みんな不自然じゃない。それが楽しい時間なんだなということがすごいなと思います。自分の思ったことを自分の思う通りにやりたいというのを、お友達も認めているというのがいいんですよ。それができるようになってきたのは、教員もそのような環境に近づけるように準備を重ねてきたというのがあります。

先生が変わった！

山田 先生方の関わり方は、マイプラが始まる前と比べて、どの様に変わってきましたか？

校長先生 「子どもと一緒に活動をする。一緒に楽しむ。」これは市川力先生（年間講師）がずっと仰られていた事なんですけれども、そこはすごくできてきているんじゃないかなと思います。教員って、私も担任の時はそうだったんですけど、やっぱり教えるのが仕事なので、困っているところしたらいい、あああるよって言いがちなんですけど、それは全部言うのではなく、できるだけ子供から出てくるような形で支援していくということを意識しています。子供がこうなんだあ面白いね」と言える先生が、今は多いと思います。

山田 先生と一緒に考えてくれる、わかってくれるというのは、子供たちにとってこんなに安心なことはありませんね。それに伴い、通常授業の在り方についてはいかがですか？

校長先生 そうですね、そこそ文章を読んで気づいたことをただ発表してください、他の人はどうですか？など一問一答式の授業って、そっちの方が楽なので、できてしまうんです。でもそうではなく、子どもたちが自ら学びを創っていくところが、ほかの授業でも少しずつ見えてくるなと言つ気がします。あとは先生たちは、三年間やってきた積み重ねがあるので、今学校全体がそういう雰囲気になつてきていると思います。

そうするとやはり公立小学校なので毎年教員の異動などはあるんですけど、新しく来た方も、四小の子供たち主体の、彼らが自分で学んでいくっていう雰囲気になつて入ります。

山田 基盤ができつつある感じですね。しかし同時に、これまでやってきたことを変えなければいけないとか、やめなければいけないということ

があつたと思うのですが、どの様に乗り越えてこられたのでしょうか。

校長先生 去年から市川力先生に来ていただいていますが、毎回マイプラが終わったあと、その日のうちに全員で集まって振り返りの時間を取るんですね。最初のうちは教員の中でも、そのやり方が本当に子供の学びになるのかという話は何度も出ました。探究探究と言うけれど、もっとしっかりと基礎学力をつけるところに時間をとって、漢字が苦手な子に書く練習を十分にやった方がいいんじゃないか、計算できない子に計算ができるように時間をとったほうがいいんじゃないかって話がありました。ですがそれだけに特化するんじゃないかって、やっぱり子供って言われたことじゃなくて、自分で獲得した学びの方がしっかり心にも頭にも残る。それを大事にしていこうっていう方をみんな

子供が変わる

大人が変わる

愛でる

しくみを作る

校長先生 なでやってきました。なかなかそういう風にならなかつたですけど。やっていくうちに少しずつです。

山田 そうして今があるんですね。

校長先生 ただやっぱりそれは子供たちが変わったからだと思えます。先生が変わって、子供も変わって、またさらに先生が変わって行く。私たちも最初は半信半疑というか、悩みながらやっていたところがあります。

子供たちの探究を支える

山田 保護者の方の関わりについてはいかがでしょうか？

校長先生 昨年度、一緒に愛でてほしいという学校だよりを出しましたけども、保護者の皆さんの子供たちを愛でる見方っていうのは強くなっていると思うんですね。子供の発表だけで

なく、学びそのものを愛でていてくれるような温かい視点で見えて頂けています。学校公開や、マイプラのアンケートでもそのような声があります。そして関わり方については、これからまだまだ私たちも考えていかなければいけないところです。ぜひ一緒に協力していただけたらうれしいです！子どもたちが、何か知りたい何か学びたいって時に、マイプラの日に直接学校にいらしてください。ですごくありがたいです。でも、メールやなんかのやり取りもできたらいいですし、毎月のマイプラの日じゃないけれども、この時間だったらちょっと時間が空くんだけどといった場合は、もし学校の昼休みであれば、何かそこでオンラインでつないで、ということもできそうです。でもこれはまだ私が勝手に思っていることだけなので。あと、

オンラインの掲示板や質問箱じゃないですけど、何か子供がそこに書き込んだ時に、保護者の皆さんもいつでもそれが見られるようになっていて「あ、これなら私ちょっと答えられるかも」というような仕組みがあれば、子供たちはクロームブックは一人一台持っているんで、どうにかうまくできないかなって思うんです。そこには教員がチェック機能を持っていきたいですね。例えば失礼な言葉を書き込まない様に。そんなものがあれば面白いなと思っています。

山田 面白そうですね！保護者の皆さん、地域の皆さんは、お仕事だったり、何かしてこられたことの専門家でもあります。気軽にマイプラに関わりやすい仕組みを考えていきたいです。

校長先生 ありがとうございます。でもですね、専門家

である必要って全然ないと思うんです。趣味の話をしていただくのも、子供の話に「うんうん。」と頷いてくださるのも大きなことで。愛でるじゃないですけど「君の言っていること面白いね！」って感じたことを伝えていただく事は絶対にプラスになることだと思います。そしてマイプラでは発表の段階で、その言い方やり方ではうまく伝わらないということが、子供たちによくあるのですが。「どうやって君のそれを伝えようか。」と一緒に考えてくれる大人の存在がとてもありがたいんです。いいねだけではなく、ご意見を頂く。何か数値化する方法だとか、アンケートをとってこう積み上げていくとか。自分の主観だけでなく全部やっていくものではないんだよってことを少しずつ学ばんです。低学年は良いにしても、中学年、高学年くらいから他者意識が出てくるって。いなって。

校長先生 そういうことって、大人はできるんじゃないかと思うんです。

子供たちって忙しい

山田 こんな意見をいただきました。先日マイプラを参観していた際、保護者の方が仰っていたのですが、「学校の授業の中で好きなことを深めていっていいのはいいですよ。ね。」と。おうちでもなく、習い事でもなく、土日などの休みでもなく、学校というのが今とても大切な気がします。

校長先生 そのご意見はすごく嬉しいです！私自身がこの三年間、大事にしたいなと思っていたことです。今、子供たちって忙しいんですよ。結構。家に帰っても習い事があつたりだとか。土日も予定が入っていたりとか。そんな忙しい中でも、子供たちの興味関心を、絶対に広げ

ていきたいという思いがありました。その時間を何とか学校教育の中で限られた時間の中でも大事にしていきたいなと思ってやってきたので、その様に仰って頂けて嬉しいです。これから、子供たちのための時間を守るといふのを続けていきたいなと思います。



募集 1

子供たちの探究を
学校が
家庭が
地域が
愛でるしくみを作る
チームをはじめます。

一緒に考えてくれる方
一緒に運営してくれる方
大募集！

日野四小PTA
までご連絡下さい

締切：11月21日（月）

募集 2

探究心を
ひらく。

マイプランスクール
について思っていること
考えていることも
お気軽にお寄せ下さい。

後日、PTAだよりに
掲載させていただきます。
ニックネームOK!

あなたの
探究してみたい
ことは何ですか？
大募集！

日野四小PTA
までご連絡下さい

締切：11月21日（月）